

第 55 回 無縫会議事録

概要

第 55 回無縫会例会は、2022 年 7 月 26 日（火）10 時から「やまゆり サロン」において対面形式で開催された。宮澤華恵さんは、都合により欠席されたが、メールにより 3 句の投句があった。

当日は、夏特有な蒸し暑さはあったものの盛会の内に終了した。

投句数は、24 句であった。

例会の開始に先立ち、無縫会創立五周年・句会 50 回を記念する会誌が出来上がった旨の報告が井口南柳さんからあり、挨拶と共に会誌が各人に 10 部ずつ手渡された。

また佐藤藍良さんから会誌の一部（10 部）を「あ・そうかい」に寄贈したい旨の提案があり、了解され、「あ・そうかい」の希望者に差し上げることとなった。

会誌完成のお祝いの会を開催する事が検討されていたが、昨今の新型コロナの急拡大に鑑み、開催日については次回 8 月の例会の際に検討し、決定する事となった。

今回の無縫会 7 月例会での特選句は以下の通り。

第 55 回 無縫会例会 特選句

「 蝉時雨声なき叫び無言館 」	風奏
「 連れ添いて砂浴び雀夏の夕 」	風奏
「 児らの手が闇に浮き出る手花火かな 」	遊児
「 清冽に冷えて気高し冷奴 」	藍良
「 笛の音も寂しき過疎の夏祭 」	藍良
「 蟬穴に声かけ蟬呼ぶ幼かな 」	紅乃
「 百合一花庭の王者の如きかな 」	紅乃

例会の俳句談義等

- ① 「百合一花…」の「如きかな」はもう一工夫あると良かった気がする。
- ② 「中天に月…小暑…」は、季重なり。
- ③ 「採れたての…」は、夏の情景を良くとらえた秀句。
- ④ 「笛の音……」は、笛の音さえも寂しく聞こえるという句で、過疎の淋しさが強調されていてこれも秀句。「も」を使用する事は難しいものだが上手く使用できている。
- ⑤ 「田の面…」は、「輝」と「砕く」の組合せにより早のさまが強調されていて秀句。

その他は割愛します。

俳句の豆知識

「まさをなる空よりしだれざくらかな」(富安風生)

この句は、「空より」と大胆にいい切ったことで、高い樹の中空から天蓋のように垂れる花の枝を、目を上げて仰ぐ感じが実によく表れている。

「**構図が素晴らしく**」、そして、「**簡略化が見事で**」、そして「**主題の焦点が定まっている**」ということになる。

この三点は、俳句創作上の要点だ。コメンテーターは失念した。

特記事項

無し

次回の予定

「第56回 無縫会開催予定」

開催日 : 2022年8月30日(火) 13時～
場所 : やまゆり
季語 : 「秋」
投句数 : 3句
投句方法 : 短冊に記載の上、持参 了